



まちづくり・はじめに。

はじめに。

まちづくりを成功させるためには市民と市役所とが考え方をひとつにして、長期計画で取り組む必要がある。

現在、まちづくりに携わっている市民活動家は、比較的短期的に、かつその時々思い付きのアイデアで勝負する傾向が強いため成果が出てこないのが現状である。

一方の行政は、なかなか、まちづくりに腰を上げようとはしない。

まちづくりは商工会議所や観光協会がやっている、我われは直接手出しをすることではない、たとえ税収が少なくなることがあったとしても、まちづくりは第三者機関の協議会がやることだと逃げている。

まちづくり（協議会）には市役所の定年退職者がデンと座り、事務方の職員もあてがってある。この職員がまちに賑わいを取り戻してくれるといいのだが、彼にとってはまちづくりなどどうでもいい。自分が在任中滞りなく職務を勤め上げることが出来れば、定年退職者として上々の人生が完結する。

何も自分でリスクを負ってまちづくりなどする必要はないのだ。

通産省が駅前商店街の衰退を食い止めるため必死になって努力している。

現地で行われる「街元気」などの研修会に地元市役所の職員は積極的に参加しそれから後もフォローをしているのだろうか。

市役所は商売のことまではタッチしない、会社の経営は経営者自身が対処してほしいと言った消極的な考え方で、一層、まちおこし、まちづくりなどがドロ沼化する傾向にある。

まちづくりはマーケティングがわかる人がやらないと成功はしない。

その点、市役所、商工会、協議会などのスタッフでは問題の解決が無理だから、まちづくり請負人に任せようが再建は早い。

どんな街を創れば住民は満足できて、人口が増えるか。

長期成長計画を立案して、誰もが住んでみたい魅力ある街に作り直そう。

まちづくりの成功事例。

まちづくりの成功事例。

市民団体、NPOなどの方々に会うと二言目にはまちおこし、まちづくりに取り組んでいるという言葉が飛び出してくる。

よほど、まちおこし、まちづくりというテーマは魅力があるものらしい。

まちおこしとかまちづくりとか言う内容は言葉を変えて言えば地域振興という意味である。そんなに簡単にできることではないように思われる。

「まちづくり請負人」が考えているまちおこしとかまちづくりといった取り組みの成功事例を2、3の例をあげてお話する。

・ 日本での成功事例。

① 今川義元。

夕刻、静岡市の駅前商店街を散策していると、美人が多いことに気が付く。

今川義元が駿河の国を治めていた時、義元は領内に美人が少ないと感じた。

そこで京都の公家の娘を200人ばかりスカウトしてきて、自分の側妾や武将の奥さんとして与えることにした。

そして美人の血筋が広がっていくことに期待した。

それから450年以上が経った今、その血筋が延々と流れていて、家路を急ぐ仕事帰りのOLをみていると静岡市には美人が多いと感じる。

義元のまちづくりは誰にでもできるようなことではないが、一度、自分でもやってみたいまちづくりである。

② 前田利家。

彼は若い頃から豊臣秀吉と一緒に時代の王道を歩き続け、日本の頂点を登りつめた人だ。

戦国の世が平定され加賀100万石の領主となったとき、金沢には京都と同じような文化、工芸が無い事を痛感した。

そこで利家は友禅、焼き物、漆器などの職人を京都から呼び寄せて、金沢でも京都と同じ生活が享受できるような対策を講じた。

江戸中期になってから「まちづくりの手本は金沢にある。」と新居白石に言わしめたほど金沢の文化、工芸レベルは高くなった。

現在の金沢はその礎を引き継いでいる。

③ 上杉鷹山。

米沢藩藩主。

鷹山は「桑の木100万本、ウルシの木100万本、コウゾの木100万本」を領内に植えるよう指示をした。

桑の葉で蚕を飼い絹織物を生産し、ウルシは木地に塗って食器を作り、コウゾの木からは上質の紙を漉いた。

現在の経済学では川上から川下までと言われているが素材の生産から加工、製品にいたるまで一切切を領内でとり行い付加価値の高い地域振興を展開して、当時、江戸幕府から借り入れていた膨大な借金を返済した。

今日で言うところの「農村六起」を18世紀に行っていた人である。

④ 宝塚歌劇団。

宝塚歌劇団は宝塚市にある。

そんなことは当たり前じゃないかという人も居るだろうが、宝塚歌劇団は阪急電鉄が宝塚を新興住宅地として売り出すために文化事業の目玉商品として設置した販売促進グッズなのである。

新興住宅地＝ミュージカル劇場、この販売促進策は当たった。

今、宝塚市に行った事が無い人でも、宝塚歌劇団は知っている。

⑤ 1村1品運動。

大分県の知事を務めた平松守彦さんがスタートさせたまちづくり運動。

言葉通り、一つの村に一つの特産物を誕生させようとの取り組みを推進して大分県下の市町村は豊かになった。

東南アジアでも大分県を見習っている国があり、まちづくりの手本として有名である。

日本全国、もっと大分県での成功事例を学習したらいいと思う。

・ 外国での成功事例。

① ニュージーランド。

いわずと知れた羊の飼育である。

羊は毎年羊毛が採れる貴重な動物であるし、ジンギスカン鍋の食肉にもなる。

老人から赤ちゃんまでをひっくるめて、人口1人あたり20頭の羊を飼育しようと国を挙げて取り組んだ。

その結果、羊毛がニュージーランドの特産品であることぐらいは誰だって知っている。

最近はやギの肉を輸出しているそうだ。

② コート・ダ・ジュール。

フランスの有名な避暑地である。

1950年当時までモノ悲しい閑村であったが、地域の人たちは何かまちおこしをしなくては生活がやっていけないと衆議一決、バラの花を育てることになった。

バラの花が咲き出したら画家が来るようになった。

女優さんが自分の特注香水を作ってくれるよう調合師を探しに来るようになる。

その内に映画のロケができないかと映画監督がやってきたり、写真家、小説家がやってきたりするようになって世界有数の避暑地コート・ダ・ジュールが誕生した。

現在でも、年間、1億本以上のバラの苗を出荷しているという。

③ ベネゼーラ。

ミスユニバースの歴代チャンピオンが一番多い国がベネゼーラである。

これも40、50年前の話になるが、ベネゼーラの内閣で観光事業を成功させる秘訣は無いかとチエを絞ったことがあった。その時の結論として、美人が多い国だとの評判をとれば観光客は自然にやってくるという結論に達したので、世界中から美人のファッションモデル、映画女優などのスカウトを始めた。

今はそうして集めた美男、美女の子供や孫達が活躍をして、ミス・ユニバースの選考ではアメリカを押さえて世界一の座を保っている。

世界にも今川義元と同じ考えの人がいるようである。

④ イタリアのミラノ。ファッションショーのメッカ。

日本人はファッションショーのメッカはパリだと思っている人が多いと思うが、現在はイタリア

のミラノで幕開けとなる。

ミラノでファッションショーを開催したら世界の5大ファッション雑誌にそのニュースを掲載するとミラノの市役所が約束したので、世界中の一流メーカーはミラノからファッションショーを開始することになった。

ここに取りまとめたものが地域振興、つまり、まちづくりの見本である。

えらく大風呂敷を広げるじゃないかとお思いの方もあることと思うが、地域振興政策などと言うものは成功をしなければ、全く、価値が無い仕事である。もし皆さんが朝市や何処にでもあるようなイベントをおこなってお茶を濁しているようであれば、即刻、お止めになることだ。

そんなものは只単なる自己満足、暇つぶしの類であって、何の価値もないものを、自分たちでまちおこしだと思い込んでいるに過ぎないのである。

まちの顔を創る。街の顔。

まちの顔を作る。

世界中、どこの市町村にもその町の顔がある。

- ・ フランス・パリ……文化の街、芸術のまち。
- ・ ロンドン……金融の街。
- ・ ニューヨーク……商業、ビジネスのまち。
- ・ トルコ……東西文明が会うまち。
- ・ ニュージーランド……牧畜の国。

みなさんが何気無に住んでいる市町村でも、その町の特色がある。

- ・ 江戸……政治のまち。
- ・ 難波……商業の町、日本の米蔵。
- ・ 長崎……貿易の町。
- ・ 京都……文化の町。

- ・ 観光の街……金沢市、高山市。
- ・ 自動車産業の街……豊田市。
- ・ コンビナートの街……四日市市。
- ・ 楽器の街……浜松市。

現在、自分が住んでいる町には街の顔があるのだろうか？

まちづくりを始める前に、自分の町の特色は何であるか、自分の街にある自然資源にはどんなものがあるのか、歴史遺産はあるのか、アクセスは良いのか、冬には雪が降って街の経済が停滞するなど、さまざまな天与の条件を考慮しながら自分が住んでいる街の特色を十分に活かす方法を考える。

自分達が理想とする街のあるべき姿を決定したら、その目標を達成するため全エネルギーを投入する。

縁起がいい街。

縁起がいい街。

人間は幸せを求めて生きている。

金持ちになりたい、長生きがしたい、美人の嫁さんがほしい、自分の運勢をよくしたいなど、総ては自分が幸せになりたいための欲望である。

そうしたさまざまな取り組みの中で、誰でもほしいものは「縁起もの」と呼ばれる類のお守りである。

これを持っていけば間違いなく幸せになれる、「縁起もの」を買って自宅に飾ると幸せが訪れる。

このノウハウは江戸時代の人々が天才的な知恵を発揮した。

①七福神。

7つの神社を御参りして、七福神と一緒に舟に乗っているお守りを買うと幸せになる。七人の神様が全員で加護してくださるのであるから、もうこれ以上の幸せはないと信じた。

②絵銭。

お金もちになるとことができる親金。

このお守りを巾着（サイフ）の中に入れておくとお金が集まる。

③薬玉（くすだま）。

よく知られている薬玉は酒屋の店先に飾られたものである。

現在は新しいお酒が出来ましたというお知らせのために店頭で飾る風習として残っているが、昔は杉のタルに入れてあるから香が良く、防腐処理がしてありますというお知らせの意味があった。

既に、平安時代には貴族の間にクス玉を飾って健康長寿を願うといった習慣があって、ドッジボールぐらいの薬玉の下に5尺ばかりの5色の帯をたらしめたものを飾った。

七夕まつりの装飾で見かけられる、あのシッポである。

④お屠蘇（お屠蘇）。

お医者さんが年末に配布した健康長寿の栄養剤。これが屠蘇散である。

このお屠蘇をいただくために漆塗りの屠蘇セットを考案して、セレモニーとしたのだから日本人は偉い民族だ。

マイセンの陶磁器は4、5万円も出せば買うことができるが、漆で作った屠蘇セットは上限がない。

フランスの皇帝でもこれだけ品質の高い器を使用して暮らしていなかったのではなかったか、と

感じるくらいである。

⑤お花見。

桜の木の下で皆が集まって酒を飲み、ご馳走を食べ、歌を唄い、踊りを踊るというのは日本特有の文化である。

一箇所に桜の木をたくさん植えて花見の場所をセッティングしたのは八代将軍吉宗で、世の中のガスを抜き、市民のリクリエーションを振興し、あわせて豊作祈願のセレモニーの場所とした。市民達はお花見に出かけるために新しい携帯型の重箱を買い、新しい着物を作り、（貴重品の）お酒を飲み、お金持ちも貧しいものも全員が平等に寄り合っただけで宴会を張るといってお花見文化を育てた。

お花見の場所には御茶屋さんが設けられ、お花見という題材が絵画、歌舞伎、能楽、小説、川柳に取り上げられ、江戸の文化が一気に花開いた。

（ちなみに、アメリカのポトマック川沿いに植えてあるさくらの下で、日本流の花見宴会をするグループはいないそうである。）

⑥お伊勢まいり。

お伊勢まいりに出かけると天からお金が降ってくる。

お金が降ってくる場所は特定がされていない。

恐らくはお伊勢さんの方角である。

江戸の町民がこの事実を確認することは全く不可能であったのだけれど、

むしろ、江戸っ子達はこのデマを喜んで喧伝した。

それだけ江戸時代の町民は陽気であり、幸せであり、エネルギーがあった。

八っさん、熊さんの世界を自分達で演じながら生活そのものを楽しんだ。

日本中どこの市町村であってもいい……その街を訪れたら、幸せになる、お金が儲かる、健康長寿で家門が栄える。

街づくりのコンセプトを「縁起がいい街」に設定すれば、自然に街が栄えるようになる。

教育を柱とした街づくり。

教育を柱とした街づくり。

日本では大学に進学する生徒が多くなった。

有名な大学を卒業すればそれだけ自分のステイタスが高くなるから、大学入学試験だけは精一杯努力すべきである。

子供達がいい大学に進学できるようになるための街づくりを開始すれば、これから子育てを始める若い夫婦がその街に家を建てたいと思うようになる。

教育の街では次のような教育方法を実施する。

① 幼児教育。

子供の教育は2、3歳頃から始めるのがいいと言われている。

音楽や絵本や図鑑など目や耳から入る情報はどの子供でも理解する。

- ・ 音楽100選。クラシック音楽を聞かせる。
- ・ 絵本100選。評価の高い絵本を見せる。
- ・ ドロンコ遊びをさせると丈夫に育つ。

② 小学校教育。

- ・ 最近の子供達はゲーム機に熱中していて落ち着きが無いそうだ。

心を落ち着けるための教育をする。

- ・ 自分でものづくりを体験させる。
- ・ 観察する習慣を身に付ける。
- ・ 詩を暗記させる。
- ・ 武道を身に付け、いじめられない自分を創る。

③ 中学校教育

- ・ 中学に入ると、成績の上で優劣が出る。

勉強の仕方、記憶術、速読術を教える。

勉強は自分が積極的に取り組まないと落ちこぼれる。

- ・ 自分の趣味を5つぐらい見つけさせる。
- ・ 英語の勉強を開始して、高等学校の教科書まで暗記する。

英語は暗記が一番である。

- ・ 大学入試にプラスとなる資格試験は高校二年生までに取る。
- ・ 人間は何故生きるのか。人生の本質を教える。

④ 高等学校教育。

- ・ 医者になりたい学生がいる。

医学部進学者のためのコースを作る。

- ・ 自分が入学したい大学を決め、入学できるよう努力する。
- ・ 将来、どのような仕事に就くか、教師が個人指導を行う。

⑤ 街を挙げて文化の高揚に取り組む。

お父さんが酒を飲んでグダを巻いているような家庭では、素直な子供は育たない。家族全員が自らの生活をコントロールする必要があるだろう。

- ・ 親が5つ以上の趣味を持つ。
- ・ 市役所が中心となって、文化講演会、音楽会、演劇などを開催する。
- ・ 住宅環境を良くしないと生活の質が向上しない。

自然環境（野山の整備）保護、まちの整理、整備を行う。

⑥ 各種の学校。

- ・ 英語の学校、フランス語の学校、中国語の学校、etc。
- ・ 詩の朗読をする学校。
- ・ お経を暗記する学校。
- ・ 名言を覚える学校。
- ・ 本を朗読する学校。

⑦ 実技の学校。

- ・ 記憶術
- ・ 速読術。

高校生の大学進学率が目に見えて良くなってくる。

特に医学部進学者の数などは顕著になる。

教育を柱としたまちづくりを始めてから2、3年が経つと、市民は自分達が住む街の特色を自覚出来るようになる。

街の目抜き通り、東西の通り、南北の通りには、シンボルとなる並木道を設置して、ステイタスを表現しよう。

ケース・スタディー。)

トヨタ自動車は愛知県の豊田市にある。

豊田さんという苗字の役員さんは豊田市に住んで居るかと言うとそうだとばかりは言えない。

現在は名古屋市を中心から豊田市に名古屋の地下鉄が走っている。

役員を務めている豊田さんはこの地下鉄の沿線に住んでいる。

お子さんは名古屋市のある有名私立中学に通って勉強しないと一流の大学へは進学が出来ないし、奥様は奥様で洋服一着を買うのでも名古屋のブティックあたりで買わないと困ることがある。

トップレディーとしては歌舞伎や舞台の鑑賞も必要になる。

オペラなどになってくると名古屋の劇場では上演が出来ないから、東京まで見に出かける人もいる。

そうなる子供と奥さんには文化教養というフールドが完備した都市機能がないと十分な暮らしが出来ないから名古屋市内に住居を構え、ご主人は車で豊田市に通勤となる。

有名大学に進学できるだけの十分な教育が提供できる学校がないと街とは言えない時代だ。

健康長寿の街づくり。

健康長寿の街づくり。

東北大震災があった2年ほどあとになってから、被災者が困っているといけないうので電話無料相談窓口を設けたところ、相談者の半数が病気の相談で、電話をかけてきた人は震災を被ったエリア以外の人が多かったようだ。

その結果から判断をすると、日本全国津々浦々、現代の日本人は一日でも長生きがしたいと必死になって自分の病気と取り組んでいる様子をうかがい知ることが出来る。医学に頼ろうとする気持がある限り、本人は病気の世界から足を洗うことが出来ない。

最近、日本の長寿県は沖縄に取って代わって長野県が台頭してきた。

長野県が設定した目標は特別に目玉商品があるわけではない。

地元で採れる鯉やイナゴを食べてたんぱく質を摂取しようという位であるのだから、余計な油脂成分を摂取しないというメリットがある程度のものである。長生きがしたいと思う人は自分で自分の健康管理方法を作る必要がある。

「健康で長生きが出来る街」づくり。

- ・ 60才を境として「健康大学」を開催し、その年代の人々が注意しなければいけないポイントについて、講習会を開催する。

- ・ この講習会に出席した住民を①健常者、②しばしば病院に行く人、③病院で治療を受けて居る人、④入院中人の4者に分類する。

- ・ 健常者は5年ごとに健康大学を受講する。

- ・ 現在、病院で治療を受けて居る人は病気ごとの講習会を受講して健康な体を回復するための努力をする。高血圧、糖尿病、肥満などである。

- ・ 入院中の方は退院してから健康大学を受講する。

- ・ 「健康大学」は60歳、65歳、70歳、75歳、80歳など5年おきに開講する。

- ・ こうして②と③の現在病院で治療を受けている人々を重点的に再教育して健常者に連れ戻す。健康的なものの考え方を学習すると、市民の病気が少なくなり、市の社会保険負担金も減少する。

- ・ 自分で野菜を栽培し、野菜を多く食べる。

- ・ コラーゲンを摂取する。

- ・ たんぱく質は油身のすくない肉や魚を食べる。朝、コーヒーにスプーン一杯分のサラダオイルを入れれば、一日に必要な脂肪分は充分である。

- ・ 高齢者は一日の摂取カロリーを1500kcal程度に落とす。

- ・ 睡眠を十分にとる。

- ・ 人生の目標を定め生涯現役を目指す。ブラブラした人生を過ごさない。
- ・ ラジオ体操、ウォーキングを奨励する。
- ・ 市内各所に鉄棒を設置して、前を通った時には鉄棒で背筋を伸ばす。
- ・ 実際の年齢より若づくりのファッションを推奨する。
- ・ 早寝、早起きを励行する。
- ・ がん、糖尿病、肥満、高血圧など、それぞれの病気にかかっている人たちでお互いに勉強会を設ける。

一般的な話として新興宗教というものは病気にかかった人に手を差し伸べ、病気を回復させる場合が多い。

仏教でも神道でもすべて最初の信者獲得は病人の救済であった。

現在でも、手をかざすだけで健康になるという宗教があるが、実際にその教団に所属している人達は殆ど病院の世話にはなっていないとのことである。

自分が元気だと思えば元気だし、病気だと思えば病気である。

スイスに難病を治すことで有名なヴィルヒャー・ベンナーという病院がある。ここではニンジンとリンゴのジュースを一日に3回のみ、主な治療方法といえば日光浴だそうである。

ニンジンとリンゴのジュースを飲んでみると水道の水を飲む機会が少なくなり、大腸の調子も良くなって、太りすぎの解消に役立つ。

日光浴をするとカルシウムを始めとする必要なビタミン類が体内で生成され健康回復につながる。

ホンのちょっとした心がけ次第で人間の健康は回復出来る。

住民の健康を把握するためにはいろいろな指数がある。

市民と市役所が一体となって「健康と長寿の街づくり」を開始すれば、3年を待たずして健康指数が良好になる。

お祭りでにぎわう街づくり。

お祭りで賑わうまちづくり。

観光客が集まってお金をビシバシと使ってくれるようなお祭りが、年に4回ばかり開催できると街に賑わいができる。

その見本は京都である。

京都には神社、仏閣の類が250ヶ所ばかりある。

毎月、お参りを奨励するために縁日をおこなっている。

門前町の旦那衆が総出して、縁日の準備を手伝う。

お寺さんには人が集まり、お賽銭が入る。

門前町の商店街は女将さんが取り仕切る。名物のお菓子、ジュースや弁当などが販売できて、商売が潤う。

お参りをした老若男女は心が洗われ、ご利益があることを実感する。

お寺さん、門前町、老若男女、それぞれにご利益があって満足だから、京都の縁日はいつまでも続くのである。

この中で大切なことは、ご縁日の準備にお金がかからないことである。

お寺さんと門前町の旦那衆が手弁当で準備をするのだから、まちおこしなどにかかる祭事費やイベント経費はゼロである。

それでいて主催者のお寺さん、門前町には利益がでて、とてもオイシイ仕事なので止めるにやめられない商売（ビジネス）である。

評論家の堺屋太一さんは観光開発を成功させるための秘策として、次のような話をしている。

「観光開発にはアトラクティブ（魅力）を創るんです。

第一に必要なのは歴史。第二が物語（フィクション）。第三がリズム・アンド・テイスト。音楽が面白くて飯のうまいところ。第四がガール・アンド・ギャンブル。第五に風光明媚なこと。そして第六がショッピングである。」と。

まちづくりも観光開発も、その根底は同じである。

京都では時代まつり、祇園まつり、大文字などさまざまなお祭りを開催して、

一年中、どこかのお寺で縁日を開催している。

やればやるほど京都は潤う。

まちおこしに取り組む人達は京都のお祭りから成功のノウハウを見習うといい。

駅前商店街の再建。

駅前商店街の再建。

2つの商店街が衰退しつつある。

どのように対処すればいいのか、一緒に考えて見よう。

① 静岡県富士市のケーススタディー。

駅前商店街がさびれてしまって、店を閉めた店舗が多い。

国道1号線バイパスにイーオンの大型店舗が誕生したので、大きな買い物をするお客さんはイーオンへ流れる。

イーオンは富士市の中にある大型スーパーなので、本当のところ、市役所は痛くも痒くもない。

1号線バイパスの両側にはたくさんの用地が空いていて、ますますロードサイド店が増えていきそうな勢いである。

イーオンのトバッチリを受けて沼津市にあった年商80億円の西武百貨店が店を閉めた。沼津の商店街の方が被害甚大である。

② 愛知県豊橋市のケーススタディー。

豊橋駅前商店街もさびれてしまった。

渥美半島の田原町にトヨタ自動車のマジェスタを生産する工場が誕生したので、豊橋市自体が大きく変貌を遂げようとしている最中である。

浜松市の雄踏町というところに駐車場が4000台収容できるイーオンがある。休日にここの駐車場に立って見ていると愛知県のナンバープレートを付けた車がドンドン来る。明らかに豊橋の市場を食いつぶしつつある様子が見て取れる。豊橋の小売業は、抜本的な対策を講じなくてはいけない。

両方の商店街は、現在、表面上はさびれかかっている。

富士市の場合は消費者が購買する場所が変わったことによるものであって富士市全体として小売業の業績はむしろ増えているから問題はないが、豊橋市の場合は小売業そのものが浜松市に食われ、衰退化傾向にあると言っている。

この2つの駅前商店街がさびれかかっている状態は、原因が全く違うのだから同じ方法で駅前商店街を論ずることは出来ない。

豊橋市、沼津市の場合は駅前商店街の再生などという部分的な問題として片付けられていいものではなく、小売業全体のあり方について市が再検討をしなければいけない問題である。

実践 まちづくり。

まちの発展を牽引するアイデア。

ひとつの街が30年50年と成長、発展を遂げていくためには地域社会に存在している自然資源を吟味して、無料、あるいは原価が安い資源を活用して取り組む必要がある。

ある街にはある街にしかない特色があるはずである。

その特色を活かして使う方法を考えなければ、いつまで経っても成功することはおぼつかない。

ここに紹介するまちづくりの計画は静岡県伊豆の国市というところに湧き出ている温泉というものを今以上に利用して、伊豆の国市を発展させようという考え方がベースとなっている。

参考にしていただければ幸いである。

100万円市民公社。

①100万円市民公社の設立と運営。

高齢化社会の到来を向かえ、日本の社会には衰退の兆候がある。

高齢者がゲートボールをして遊んでいて、病院通いに明け暮れていたのでは社会のタガがゆるんでしまうのも仕方がない。。

若者は仕事が無くてフリーター、高齢者はやる事が無くて浮浪フリーター。

これでは、日本は文化国家でもなければ、福祉国家でもありません。

そこで、自分達が住んでいる市町村で、定年退職を迎えた60才以上の高齢者が働きたい人は誰でも働くことが出来る「100万円市民公社」を設立して、年間、一人当たり100万円の賃金を支給する。

社員の給料は@5,000円×ひと月20日×10ヶ月=100万円から算出される。

つまり、週休2日休みにして、10ヶ月働く勘定となる。

年間100万円の収入は総ての年金生活者が無税で得られる最高金額である。

・市民公社は観光資源、遊休施設、遊休農地、竹やぶ、山林など、一切合切を管理して、財貨に代えるための市民の会社である。

天与の自然資産は神様が住民に与えてくれた宝物なので、豊かな暮らしをするために役立てなくてはバチが当たる。

・市民は健康である限り働くことが出来、100万円の小遣いが得られる。

夫婦二人で働けば200万円が得られる。

・仕事を持って働いていると健康に注意する。

病院で薬を貰う時間が少なくなるので、社会保険費負担の軽減につながる。

・一緒に働く人は近所の人ばかりなので、市民は市民公社に勤めやすい。

世間話の延長をされていて収入になる。

・市役所が発注する仕事は、まず、市民公社で対処することが出来ないかを考える。地元企業に優先的に発注する。

・高齢者の収入が多くなると、お金のめぐりが良くなって世の中が安定する。

②100万円市民公社の業務内容。

どこの市町村でも取り組むことが出来るアイデアを列挙してみる。

- ・ 炭焼き
- ・ しいたけ、きのこの栽培。（直径10cm以上でステーキとして販売できる椎茸）
- ・ 鯉、フナ、どじょうの飼育。（伊豆・河津町は沢ガニでまちおこし。）
- ・ イノシシ、鹿肉。（犬用に加工する。）
- ・ キジ、鴨の飼育。（高級食材。）
- ・ 一個50円のタマゴ。（餌を醗酵させると栄養価が高いたまごが採れる。）
- ・ 健康で長生き、薬草、入浴剤の販売。
- ・ おいしいお漬物の生産。

（日本の食文化はつけものに始まって漬物に終る。）

- ・ みかん、かきの木を植える。毎年収穫ができる。
- ・ つくし。一時に旬。短時間で勝負。
- ・ 肥料。山の落ち葉に海水をかけると上等の肥料ができる。肥料の販売。
- ・ かや。不眠症の人が多くなったので、緑色の蚊帳を販売。
- ・ 役所、役場、観光協会などからの仕事を優先的市民公社に発注する。
- ・ 川がある街は国から土手を借りて農地にする。
- ・ 山のある街。山裾の幅5mの木を切って、作物を栽培する。

この市民公社であれば、日本中、どこの市町村でも取り組むことが出来る。
大きな声では言えないがマムシの養殖で収入を挙げている市町村さえある。
人間の知恵を活用すればアイデアはどれだけでも出てくる。

③100万円市民公社の将来。

伊豆の国市を例にとって考えてみると、人口がザット5万人、60歳以上の高齢者が20%居ると仮定して1万人、伊豆の国市の年間予算は178億円である。

市役所が発注する仕事を一般企業に発注するのであれば、自分の街で、自分の街の人々が働いている会社に発注した方がベターである。

職員に支払う人件費は除くとしても、市役所が市民公社に5億の仕事を発注したとしてもバチは当らない。

市民公社に発注すれば、ひとまず、500人の雇用が確保できる。

(市会議員などは5人も居ればよい。昨今は議員より市民の方が賢い。)

観光協会が実施するお祭りやイベントは業者に発注する事を中止して、すべて市民公社のスタッフに任せる。

5人や10人の人が集まって100万円市民公社をスタートしようと計画しても上手くいかない。

500人、1000人(半分は主婦)が一団となって行動をおこすと、中小企業以上の組織力を発揮することができるので、市役所や観光協会が発注する仕事でもソツ無くこなすことができる。

・100万円市民公社を発足させる。

有権者の**20%**は老人だから、市民公社推薦の人が市長、村長に当選する。

そうすれば、働きたい高齢者は誰でも年間**100万円**程度の収入が得られる理想の故郷が完成する。

・市会議員、村会議員の半数は市民公社推薦の人が当選する。

市民公社への仕事の発注量が多くなる。

市役所の仕事は、主要部分を除いて、市民公社の派遣社員が行う。

そうするとギリシャ、ローマ時代と同じように、市民による、市民のための本当の民主主義が実現する

ミュージカル・アソシエーツの創設。

②ミュージカル・アソシエーツの創設。

伊豆の国市から芸術と文化を発信しよう。

伊豆の国市にある市民会館を本拠地として
宝塚歌劇団や劇団四季と同じようなミュージカル・アミューズメントが上演できる音楽団体を組織して、毎週、金曜日、土曜日の夕方に公演する。

アメリカのラスベガスと同様に歌、音楽、ショーを楽しんでいただき、名実ともに観光都市を目指す。

ただ単に伊豆の国市で上演するだけの話ではなく、伊豆半島全体を視野に入れ巡回公演も含めての話である。

ミュージカル・アソシエーツは市役所の指定管理者が運営の母体となり、学校法人で運営する。

校長には東京芸術大学卒のクラシック畑を歩いている人をお願いをする。

芸能界、タレント業界とは一線を画すことが肝要である。

ミュージカル・アソシエーツでは下記の5点に力を入れる。

- ・ 子供達が歌手になるための登竜門を用意する。
- ・ 作詞家、作曲家、歌手になりたい人達（若者）を発掘する。
毎週、新曲をリリースする。そのうちにヒット曲と新人スターが誕生する。
- ・ フルバンドの伴奏で歌を唄いたいカラオケファンが山ほど居る。
彼らに有料でステージを使っただかく。
- ・ お伽噺。
パワーポイントを併用したオトギバナシという新しい話芸をご披露する。
- ・ オリジナルのミュージカルを上演する。
素材は頼朝、政子、伊豆の反射炉など多彩である。

舞台終了後、毎回、観客と出演者が一緒になって記念写真を撮影する。

その写真に写っている出演者やスタッフの中から、将来のスターが誕生する。

観客にとっては思い出の写真ができる。

国連平和村の構想。

③国連平和村の構想。

相変わらず世界各地で紛争や戦争がおこっている。

我われ日本人としても、これまで以上に国連の役割を深く認識して、より一層、世界平和の推進に努力すると共に、世界平和の実現に向けて貢献することが求められる。

この「国連平和村」の構想は国連の平和活動を支援し、あわせて国連加盟約200国の現状をパビリオンで紹介しながら、参加各国の食べ物、飲み物、お土産などが購入・体験できるショッピングエリアを設置して、世界一周旅行を楽しんでいただくことができるようにすると共に、参加国各国がわが国との貿易業務が促進できるよう支援することを目的としたテーマパークである。

ただ単に観光客を呼ぶことが出来るばかりではなく、世界にただ一つの国連をサポートするための文化施設が開設できることになるので、国連平和村は世界各国に一つの「世界平和村」が設置でき、国連に加盟している各国の相互理解と貿易の促進に役立つ。

国連平和村、日本平和村の概要。

① 国連の事業紹介パビリオン。

- ・ 国連の仕事、国連の活動の紹介。
- ・ 世界各地に存在する戦争の火種の紹介。
- ・ 世界中にある戦争兵器、陸、海、空、爆弾などの総量、模型や実物を展示する。
- ・ 地雷などの恐ろしさをジオラマで体験する。
- ・ 小学生、中学生、高校生の遠足、修学旅行の施設として利用できる程度の内容を整備する。
- ・

② 日本平和村。

- ・ 日本平和の像と平和の塔。
- ・ 日本戦没者慰霊碑。（靖国神社からA級戦犯を除いた人たちの慰霊墓地。）
（海外からの国賓、大統領などが献花できるに慰霊墓地。）
- ・ 日本戦争歴史記念館。日本が参戦した戦いについて、正しい歴史を残す。
- ・ 広島、長崎など、原爆爆心地の慰霊碑。（原爆歴史資料館）
- ・ 沖縄、激戦地の慰霊碑。
- ・ 外国人の慰霊碑。

③ 世界平和村。

- ・ 世界平和の塔と平和の像。
- ・ ここにメインの国連の事業紹介パビリオンを設置する。
- ・ 加盟各国が独自に取り組んでいる平和活動関連事業について紹介する。

④ パビリオン。

参加各国のパビリオンを200軒近く建設する。

各パビリオンでは国を紹介するための展示、お土産や特産品の販売、各種飲食ができる場所を設置する。

イベント広場、展示場などもほしい。

全体でゴルフ場1ヶ処分、30万坪ぐらいあるといい。

⑤ フラッグ・ストリート。

- ・ 国連平和村に参加する各国の国旗を掲揚する。
- ・ 加盟国は約200ヶ国ある。1 kmに一本掲揚するとすれば200km。
- ・ 各パビリオンを担当するエリアでは、参加国の国旗、大きな国はその国の州や県の旗を、集中的にまとめて掲揚する。
- ・ 国旗は大使館から提供を受け、掲揚台は寄付金でまかなう。
(寄付をしてくれた人の住所と名前を台座に刻むことを条件として、広く一般の人たちからの浄財を仰ぐ。)

⑥ イベントや企画等。

- ・ 各エリアにイベント広場、お祭り広場を設けて、イベントを行う。
- ・ 各国の著名な政治家、芸術家、文化人などが日本にすれば、この国連平和村を訪問してくれることとなるし、音楽、ダンス、演劇、各種のショーなどが上演できる。
- ・ テレビ番組を制作する舞台としても利用できる。
- ・ どこかの国、どこかの市町村の特産品、産物、お土産品などの特別展示即売会などもおこなうことができる。

花の大江戸東海道五十三次街道まつり。

④花の大江戸東海道五十三次街道祭り。

江戸時代の日本では東海道五十三次ぎに宿場街があって、現在の静岡県（伊豆、駿河国、遠江国地内）には下記の23の宿場があったといわれる。日本全国の中でも旧東海道の面影を、一番、色濃くのこして居るのは静岡県である。

新居の関所跡、東海道の松並木、宿場町、旅籠、浜松城、掛川城（山内一豊）、駿府城、神社、などなど。

江戸時代、静岡県の基幹産業は参勤交代の諸大名が払う路銀で栄えた街である。

正しく、シルクロードと同じ役目を担っていた。

静岡県は歩いていただかないと豊かにならない県なので、トラックや新幹線が走るようになってからは鳴かず飛ばずである。

- ・伊豆……………三島
 - ・駿河……………沼津、原、吉原、蒲原、由比、興津、江尻、府中、まりこ、岡部、藤枝、島田。
 - ・遠江……………金谷、日坂、掛川、袋井、見付、浜松、舞阪、新居、白須賀
- 合計23宿。

10月、11月の2ヶ月をかけて参勤交代当時の大名行列を再現する。

静岡県全市が参加して「花の大江戸五十三次街道まつり」（江戸表への旅）というおまつりを行う。

静岡県の西のはずれ白須賀から始まって箱根山まで、土曜日と日曜日の2日間、計8週間合計16日間、約2ヶ月をかけておまつりをおこなう。

湖西、浜松、磐田、掛川、島田、藤枝、静岡、富士、沼津、三島などの主要都市で2日間ずつ開催して、合計8週間16日とする。

お祭りは旧東海道の町並みを歩いて江戸表に出かけるという想定である。

（静岡県は国道1号線のバイパスが完備している。旧道でこのお祭りを行ってもさしさわりが無い。）

大名行列は各藩の大名行列を再現する。

一例をあげると

浜松……………尾張藩の大名行列。浜松の市内では一週間名古屋ウィークを開催して名古屋のPRを開催する。

月曜日から日曜日まで尾張藩ウィーク。

お祭りは土、日の2日間開催。日曜日の夕方次の街に引き継ぐ。

三英傑が大名行列の先導にたってくれるかも知れない。

掛川……………紀州藩の大名行列。掛川では一週間和歌山ウィークを開催して紀州の催事を開催する

月曜日から日曜日まで紀州藩ウィーク。

お祭りは土、日の2日間開催。日曜日の夕方次の街に引き継ぐ。

紀州はみかんと梅干が名物だ。

静岡……………毛利藩の大名行列。静岡では一週間毛利藩ウィークを開催して毛利藩のイベントを開催する。

月曜日から日曜日まで毛利藩ウィーク。

お祭りは土、日の2日間開催。日曜日の夕方次の街に引き継ぐ。

今は三本の弓矢か。

沼津……………薩摩藩の大名行列。

沼津では一週間薩摩ウィークを開催して薩摩のPRに勤める。

月曜日から日曜日まで薩摩藩ウィーク。

お祭りは土、日の2日間開催。日曜日の夕方次の街に引き継ぐ。

さつまいもの早喰い大会。

大名行列が通過するところでは、通過する藩の文化、歴史、物産、名物、音楽、観光など万博と同じ内容を披露してそのまちのPRに務める。

時には、北海道や宮城が参加しても、花の大江戸五十三次街道まつりは単なるお祭りにすぎないので、さして問題が生じることは無い。

協力をお願いする都道府県に対してもその県の経済発展に繋がることはあっても、負担になることは無い。

外務省は在日大使館の駐在員を招待して、日本の歴史を理解していただこうと務める。

火縄銃などの空砲を発射すると、その凄さにビックリするはずである。

文部科学省は世界各地で日本について研究している学者、文化人を招待して、貴重な歴史文化を見ていただきたいと考える。茶の湯（ティー・パーティー）、いけばな、能の舞台など、この時に見せるべきである。

参勤交代などという政治システムは、日本だけにしか見当たらないものだ。

当時は各藩が独立国であったから、「ユナイテッド ステイツ オブ 日本」であった。

世界中の政治家は日本の参勤交代の意義と価値について、レクチャーを受け勉強しておくとい

国内で暴動が起る前に、自分の国を幾つかの藩（ステイツ、州）に分割して、統治する方法が残されている。

世界の国々からの見学が多くなれば、やがてはパリ祭程度のお祭りには発展するはずだ。

静岡県は富士山を世界文化遺産に登録して海外からの観光客を誘致し静岡空港の利用客を多くしたいという腹づもりなのだろうが、温泉や自然の美しさで観光客を呼ぶという手法は1900年代で終わりをつげた。

これからは日本が誇る文化、文明の力、世界中探しても見ることが出来ないすばらしい過去の歴史・文化に光を当て、世界中の人々にアピールする時なのだ。

これが実現できるのは静岡県以外にはないはずだ。

「花の大江戸五十三次街道まつり」を開催すれば静岡県には300億円500億円の経済波及効果が生じる。

そして、いま日本に停滞している不景気の雲が西の空へと消えていき、青空が見えてくるに違いない。

静岡県は日本のド真ん中にある。

静岡が元気になれば、日本中が元気になる。このプライド、この自尊心を捨ててはならない。

このお祭りは、静岡の東から西の果てまで、どの市町村でも商売になり、増収増益につながることは間違いがない。

ジュエリー・マーケット。

⑤ジュエリー・マーケット。

アメリカの商業施設の一つにジュエリー・マーケットというものがある。大きなビルの1階から屋上まですべてが宝石関連の卸売り店が入居している。小売商は1階から屋上まで一回りすれば必要な商品は総て揃うし、ここで商品を買いたい人には小売価格で販売をしてくれる。集まっている商品の数が半端な数ではないし、真珠のネックレスを販売している店が20、30軒もワンフロアーにひしめき合っている状況だから、間違っても高い商品を買わされることもない。いろいろな店を見て廻れば自分に最適なデザイン、価格の品物がゲットできるから、誠に便利な商業施設である。

日本で宝石の仕入れをしようとする場合、素材は東京の御徒町、製品の産地は山梨県の甲府あたり、イタリアやスペインの商品を見たいと思えば、時々、開催されるビッグサイトの展示会に出かけなければ手に入らないといった現状であるから、どこの宝石小売店も商品が硬直化している。

一ヶ所に宝飾品の工房、メーカー、卸売り、原石の輸入業者、海外のメーカーなどが集まっていれば、自分の店舗にマッチした商材を早々に仕入れをして、流行の波にのることが出来る。

商品の仕入れは短時間で済ませたいと考えている。時間がかかれば掛かるほど疲れてくるし、判断力が鈍くなる。つまらない商品を仕入れるのは帰りがけになってから買った商品が多い。

そこで、新幹線の停車駅のすぐ近くにジュエリー・マーケットを誕生させる。ビル一棟を宝飾一点に特化して、全国からやる気のある業者を一同に集める。そうすると、日本の西半分の市場を手中に収めることが出来るし、年に2、3回の展示会を開催すれば東日本各地からの参加者も増えるであろう。

日本における宝飾品の市場規模は年間8000億円だと言われている。このうちの5%を押さえることが出来れば400億円のビジネスが誕生する。宝飾は手作業による加工が多いので、裾野の広い産業に育つ。

まちづくり請負人の研究テーマ。

まちづくり請負人の研究テーマ。

「まちづくり請負人」のおじさんは静岡県伊豆半島の付け根にある伊豆の国市という人口が5万人程度の街に住んでいて、まちづくりに取り組んでいる。

このすぐ近くに人口11万人の三島市、人口25万人の沼津市、同じく人口25万人を擁する富士市の3市がある。

静岡県はこのエリアに静岡県の東玄関口としての政令指定都市を誕生させたいと躍起になっているところであるが、いずれの街も産業が衰退していて、商店街にも元気が無い。

これだけ大きな市を再建するためには基幹産業と呼ぶことができる産業が2つか3つ位は用意されていないと再興がむずかしいし、このままの状態を放置するようなことになれば、3年後の静岡県東部地区は見るも無残な姿に成りさってしまう。

「まちづくり請負人」のおじさんは基幹産業が誘致できるほどの力と人脈を持っているわけではないから、ひとまず、元気がない商店街を再建して、地元の方々に自信とやる気を取り戻していただく以外に方法はない。

人口が10万人から25万人規模のまちづくりというテーマは、現在の日本ではどこの市町村でも頭を抱えている問題である。

少しばかりのアイデアを考え付いたぐらいでは問題を解決することは出来ないので

「ベストワン オンリーワン」

といった考え方をベースにして、独自性の高い計画に取り組まなければ問題は解決しない。

2014年4月、来年の春までに再建プランを完成させ、ご覧頂きたいと考えている。

まちづくり請負人のプロフィール。

まちづくり請負人のプロフィール。

浅井邦容。（くにかた）

1940年生まれ、愛知県出身。

大学卒業後、広告代理店に勤務。40才からは自ら広告代理店を経営する。

現住所 〒410-2142 静岡県伊豆の国市韮山金谷69-1

メールアドレス seishunbanzai@happy.odn.ne.jp（青春萬歳）

まちおこしやまちづくりが成功しない理由のひとつはマーケティング、販売促進、市場調査など経営学の専門知識を持たない人が担当をするからである。専門知識を持たない人間が担当して問題が解決できるほど簡単な仕事ではない。

第二は、市役所の商工観光部、観光協会、まちづくり協議会、コンサルタント、大学の先生、市民団体など船頭が多すぎる。

まちづくりの目標が決まったら、実務は専門家に任せないと成功しない。

私は広告業界で生きてきた。

広告の世界では広告主の営業成績をあげることができない人間は生きていくことが出来ない。

まちづくりに関して言えば、どこの市町村でもやっているようなアイデアは、どれだけたくさん猿真似をしても無意味である。

隣接市町村半径100km圏内（できれば日本全国）で、「ベストワン オンリーワン」の魅力を発揮できないような計画を作ってはいけない。

職業 **NPO**法人 伊豆開花クラブ 創設理事。

（静岡県伊豆の国市を中心にまちおこし、経済の活性化、高齢者の雇用促進、カンボジアの支援活動などを旗印に活動して居る。）

著書 「がんにかかって死ぬ前に」（電子書籍パブー）

（20年来、養生をしてがんを防ぐ方法を研究している。）

編著 「富士山に向かって何か一言」（2012年度の応募作品集）（パブー）

「富士山に向かって何か一言」（2013年度の応募作品集）（パブー）

（毎年、2月23日は富士山の日である。NPOの事業として、富士山へ

の一言メッセージを募集している。）

農業 耕作放棄地を削減するため4反ばかりの百姓仕事を行っている。